

土木森林環境委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成24年5月25日(金)

2 出席委員(9名)

委員長 堀内 富久

副委員長 塩澤 浩

委員 中村 正則 皆川 巖 渡辺 英機 河西 敏郎 丹澤 和平

早川 浩 木村富貴子

欠席委員 なし

地元議員 棚本 邦由(大月市) 白壁 賢一(南都留郡)

3 調査先及び調査内容

(1) 【一般国道300号災害防除工事】(南都留郡富士河口湖町本栖地内)

富士河口湖町精進活性化センター会議室において、当事業の説明を受けた後、現地の視察を行った。
質疑については、現地視察をしながら、行った。



(2) 【葛野治山工事（明許）】大月市七保町葛野地内

○調査内容（主な質疑）

問) 葛野川まで約10万立米の土砂が流出し、さらに崩壊上部には約8万立米の土砂が堆積しているとのことであるが、これは資料2ページの写真の湧水箇所の上のほうになるのか。

答) 湧水箇所より上であり、崩壊土砂堆積は4ページの上のほうの写真のちょっと下のところに湧水箇所がある。

問) ここの斜度はどのくらいあるのか。

答) 平均的に35度、急なところでは40度ぐらいである。下方に行くにつれて傾斜は緩くなる。

問) 平均斜度が35度というと、かなり急傾斜ということであるが、結局、そこで8万立米の動いた砂があるということで非常に危険な状況であるという気がするが、これはその状態を止めるという工法でいくのか。

答) 現在、施工中の谷止工において、葛野川への土砂の流出を防いでいる。上部については、今年、強度とか地層に対して、ボーリングを含めた調査を計画しており、その調査により改めて土量を把握して、現場内処理ができないような場合には必要に応じて土砂の搬出もあり得る。

問) 雨が降れば非常に危険なので、決して犠牲者を出さないといったことを配慮して万全の体制で望んでいただきたい。

写真で見る限り、両サイドに急傾斜地があり、どうも間伐がされていないのではないと思われる状況で、雨が降ったから崩壊したとは言うものの、森林の手入れが怠ったのではないかという重いがあるのだが、その辺はいかがか。

答) 2ページの写真を見ていただきたいが、ここには針葉樹や広葉樹林もあり、そして傾斜がきつくて地質も悪く、そして、委員が申し上げたとおりに、恐らく伐採もしておらず、そのまま天然林で残っている状況である。人工林のほうについては、これだけの大きい崩壊であるので、森林整備のあるなしで崩壊を招いたという判断は出来ない状況である。

問) 判断できないというわけにはいかないと思うが。先ほどの説明だと復旧整備に8年間を要するということであるが、8年間の間にはどのような状況が発生するかわからないので、職員が気合いを入れて取り組んでいただくようお願いする。



※ 富士・東部建設事務所会議室において、当事業の説明を受けた後、質疑を行った。その後、現地視察を行った。

以 上